園児に眼科検診

麻生の幼稚園

幼児の視力低下の状況を調べ、矯正視力が1・0に満たない弱視の早期発見につなげようと、川崎市麻生区の柿の実幼稚園で28日、4～6歳児の約140人に対して眼科検診が行われた＝写真＝。

この日は、「だんのうえ眼科クリニック」（中原区）の檀之上和彦院長（45）らが視力検査のほか、機械を用いて弱視や斜視など目の異変を調べた。小島澄人園長（66）は「30年前に比べ眼鏡をかける園児が増えた。目は大事だという意識を持ってもらいたい」と話した。

市教委によると、小学1年生の視力を2015年度と19年度で比べると、「1・0以上」が83・7％から78・4％に減少した一方、眼鏡の着用が推奨される「0・7未満0・3以上」は3・8％から5・5％、「0・3未満」も0・7％から1・1％といずれも増え、悪化傾向にある。檀之上院長は「スマートフォンやタブレットの影響が大きい。コロナ禍以降は外遊びの時間が減ってさらに悪化している。視力機能は8歳頃までに完成するため、早期の発見や治療が重要」と話した。